子育て応援に本気でこたえる神戸へ

市立幼稚園閉園計画は地域の核を壊します!!

神戸市は、少子化を理由に幼稚園を減らそうとしています。現在41ある市立幼稚園のうち13園を廃止にする条例のための議案が今回上程されました。「これ以上一園も閉園しないでください」という陳情には、市立幼稚園PTA連合会とともに、実に40の保育園の保護者から反対の意思が示されました。

▲多くの児童が通う市立住吉幼稚園

また、東灘区の住吉・遊喜幼稚園の陳情では、主任児童員の方から大正時代から続く両園が地域の中で果たしてきた役割が熱く語られました。「地域の核」となってきた公共施設が無くなることは、すべての世代にとって不幸です。

神戸市が今一番力を入れているのは、「子育て世代に選ばれる街」です。しかし、これでは、「子育て世代」に選ばれるわけがありません。それどころか、教育長から「公立幼稚園をゼロにする気はない」と今後、さらに大幅な幼稚園の削減を示唆する発言が飛び出しました。　今、力をあわせて、この危険な計画をとめていくことが大切です。

「保育園落ちた日本死ね」と書かれたブログが大きな話題になり、改めて保育園待機児童の深刻な実態に注目が集まっています。このおおもとには、全国で2004年には1万2358園あった公立の認可保育所が14年には9791園に減っていることがあります。神戸市においても、同時期に82から58園にまで減らされています。

3歳までしか預けられない小規模保育事業を中心に対応するとしていますが、その後の行き先がなくなる新たな問題が生まれています。その中で、新年度も3月第2週現在で1100人の子どもの行き先が決まっていません。

市として、保育士の待遇を改善し、責任を持って認可保育所の建設に力を入れる、それでこそ子育て応援の街ではないでしょうか。

市民の願いが前進

御影北小学校の整備

御影北小学校の増改築がスタートします。総額約20億円で平成32年度完成予定です。

西議員は、市議会で繰り返し、御影北小学校の過密化と老朽化による校舎の天井の落下や、壁からの浸水問題などの解決を求めてきました。その中でも、南校舎においては、避難階段が無く、火災時などの安全対策が出来ていないと指摘し、非常階段の設置を実現しました。今回の増改築では、校舎やプールなどを集約化し、新たな校舎が建設され、教室不足の解消や運動場の拡大、体育館・プールなどの学校施設の改善、仮設校舎の解消を図る、とされています。

【現段階での事業スケジュール】	
平成28年度	基本設計･実施設計
平成29～31年度	建築工事
平成32年度	新校舎供用開始(予定)

▲窓にフックで避難はしごをつけて降りる仕組みになっていました(2013年)

御影北小学校の児童数の予測推移 (27.5.1)　保有教室：29（普通）+3（特別支援）

	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	32年度	33年度
児童数	969+8	972	979	1024	1049	1043	1046
学級数	28+3	29	30	32	32	31	31

H28年以降は特別支援除く。

戦争法廃止 神戸から発信を

戦争法（安保法制）にもとづき、日本からはるか離れたアフリカ･南スーダンでの自衛隊の任務拡大を政府は狙っています。現地では、2月にも政府軍からPKO（国連平和維持活動）への攻撃があり、死者が出ています。また、過激組織ISに対する軍事作戦への自衛隊参加の危険も指摘されています。一方、アベノミクスの中で、原発とともに武器輸出が大きく位置づけられるなど、“戦争できる国づくり”が進行中です。

神戸には、核兵器を搭載した艦船の入港を許さない非核「神戸方式」があります。これは、かつて米軍の基地があった神戸でも米兵による事件があり、反対運動が盛り上がる中でつくられてきました。だからこそ神戸から平和の発信を行っていくことが大切です。